

報告事項ア

図書館を活用した「サポートの必要な家庭」応援事業の取組みについて

図書館を活用した「サポートの必要な家庭」応援事業の取組みについて、別紙のとおり報告します。

平成30年1月25日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

## 図書館を活用した「サポートの必要な家庭」応援事業の取組みについて

平成30年1月25日

本年度、経済的に困窮する家庭やひとり親家庭等の「サポートの必要な家庭」と、そこで育つ子どもたちを支援するための取組みを、県福祉保健課くらし応援対策室や関係機関・団体等と連携して実施しました。

### 1 本年度の主な取組み

- (1) こども食堂運営者、スクールソーシャルワーカーを講師に招いた職員研修の開催  
(7月の定例教育委員会で報告済み：別紙)
- (2) 図書館が居場所であることをPRするためのチラシ・ポスターの作成（別添）
- (3) 子どもや若者の居場所作りを推進するイベントへの出前図書館の実施
- (4) 図書館を活用した『サポートの必要な家庭』応援について考えるセミナーの実施  
※2で詳述

### 2 図書館を活用した『サポートの必要な家庭』応援について考えるセミナーについて

#### (1) 概要

	西部	中部	東部
日時	11月21日(火)	11月22日(水)	12月7日(木)
会場	米子市立図書館	倉吉交流プラザ	鳥取市立中央図書館
共催	米子市立図書館	倉吉市教育委員会	鳥取市立図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県福祉保健課くらし応援対策室による現状説明(25分)</li> <li>・図書館職員による図書館の取組事例の紹介(25分)</li> <li>・図書館サービスの現場を見学する館内ツアー(50分)</li> <li>・図書館の活用法について考えるワークショップ(60分)</li> </ul>		
参加人数 (合計)	30名	21名	29名
	80名		
参加者 所属等 (図書館 以外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米子市福祉政策課</li> <li>・米子市児童相談所</li> <li>・米子市社会福祉協議会</li> <li>・米子市児童委員</li> <li>・大山町教育委員会</li> <li>・大山町人権文化センター</li> <li>・中山ふれあいセンター</li> <li>・日吉津村教育委員会</li> <li>・鳥取県弁護士会</li> <li>・YMCA 米子医療福祉専門学校</li> <li>・子どもの人権広場</li> <li>・県西部総合事務所 福祉保健局</li> <li>・県福祉保健課 くらし応援対策室 ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市民生児童委員連合 協議会</li> <li>・北栄町人権文化センター</li> <li>・大山町中高ふれあい 文化センター</li> <li>・鳥取県母子寡婦福祉連合会</li> <li>・鳥取緑風高等学校</li> <li>・こども食堂 運営者</li> <li>・学習支援施設 運営者</li> <li>・県福祉保健課 くらし応援対策室 ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取市生活福祉課</li> <li>・鳥取市こども家庭課</li> <li>・鳥取市中央人権福祉センター</li> <li>・鳥取市パーソナルサポート センター</li> <li>・鳥取市立浜村小学校</li> <li>・若桜町社会福祉協議会</li> <li>・八頭町教育委員会</li> <li>・青翔開智中学校・高等学校</li> <li>・こども食堂の開設を予定され ている方</li> <li>・県教育委員会事務局 人権教育課</li> <li>・県福祉保健課 くらし応援対策室 ほか</li> </ul>

## (2) ワークショップで出た図書館活用法のアイデア等

- ・児童の宿題を手伝う活動を図書館で（退職教員の活動・ボランティアの場として）
- ・こども食堂や学習支援団体、学童保育等へ本を貸し出してはどうか
- ・様々な体験ができるイベントを放課後の時間帯等を実施してはどうか
- ・だれもが気軽に集えたり、しゃべったりできる空間を設けてみては

## (3) 参加者からの感想

- ・図書館という場を使って人と人をつなぐこと、人それぞれのよさをつないで活かすことができる実感した。
- ・サポートの必要な家庭のことを知っていないとサポートは難しい。サポートする立場の人が図書館について知り利用するのは有益だと思う。
- ・今まで、図書館と居場所づくりを関連して考えていなかったが、いろいろな可能性があると気づかされた。
- ・図書館には色々な機能があることを改めて知り、色々な可能性を感じた。ワークショップの成果など可能なものがあれば取り組んでいきたい。
- ・図書館員以外の方のアイデアがとても参考になったし、驚かされた。



図書館の取組事例の紹介（西部会場）



館内ツアー（中部会場）



ワークショップ（東部会場）



ワークショップ（中部会場）

## 3 その他

来年度は、本年度に関係を築いた支援機関や団体、市町村立図書館との連携を更に進め以下の事業に取り組む予定です。

- ・こども食堂、学習支援団体への本の貸出し
- ・「図書館＝居場所！？キャンペーン」の実施
- ・「居場所としての図書館について考える街中ワークショップ」の開催
- ・社会参加につながるボランティアの機会の提供

『サポートの必要な家庭の<sup>いま</sup>現在を知るための講座』の開催等について

平成29年7月6日

県立図書館は、本年度から生活困窮家庭やひとり親家庭等の「サポートの必要な家庭」を応援するための事業をスタートしました。最初の取組みとして、社会の現状や課題について学ぶために、県内で活動する支援者を招いた職員勉強会を開催しました。

## 1 第1回（5月11日（木） 鳥取県立図書館大研修室）

## (1) 講演内容

「学習支援施設・子ども食堂から見える子どもたちの現在」

講師：岡 武司 氏（NPO こども・らぼ）

内容：鳥取市で学習支援施設・子ども食堂を運営するNPO「こども・らぼ」での活動について聴き、現場で感じる子どもの様子や家庭の現状、子どもたちが集う「場所」の運営について学びを深めた。

## (2) 参加者

57名（県・市町村立図書館、学校図書館、県福祉保健課くらし応援対策室、市町村スクールソーシャルワーカー（SSW））

## (3) 参加者からの感想

- ・貧困問題は、物質的な問題だけではなく、社会との関わりやコミュニケーション能力、金銭感覚にまで及ぶと気付かされた。
- ・図書館が静かに勉強や調べ物をする場所という枠を外さなくてはならない。
- ・図書館を第3の場所として知ってもらえる取り組みを考えるべきだ。



## (4) その他

- ・岡氏は7月27日に開催する鳥取県図書館大会にも参加予定である。
- ・新聞3紙の取材があり、後日、報道を見た県民の方から、図書館での学び直しの支援を利用したいという連絡をいただいた。

## 2 第2回（6月8日（木） 鳥取県立図書館大研修室）

## (1) 講演内容

「子どもを支え続けてきたことで見えてくる日本と鳥取県の現在」

講師：福島史子氏（鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター  
スクールソーシャルワーカー活用事業 スーパーバイザー）

内容: S S Wとして多くの子どもや家庭に関わって来た経験から、現在の日本、鳥取県における貧困問題の現状や、生活困窮家庭、子どもたちが抱える課題について学んだ。

## (2) 参加者

67名(県・市町村立図書館、学校図書館、県福祉保健課くらし応援対策室、町教育委員会、市町村S S W)

## (3) 参加者からの感想

- ・ふつうに見える支援が大切だと学んだ。
- ・数字を含めた実情が衝撃的だった。知ることができてよかった。
- ・単発で終わらせないように、図書館で何ができるか職場に戻り皆で考えたい。
- ・学校、教育委員会、福祉担当課等が情報共有をして、子どもの声を聴き、何が子どものためにできるのかを考えることが大切だ。

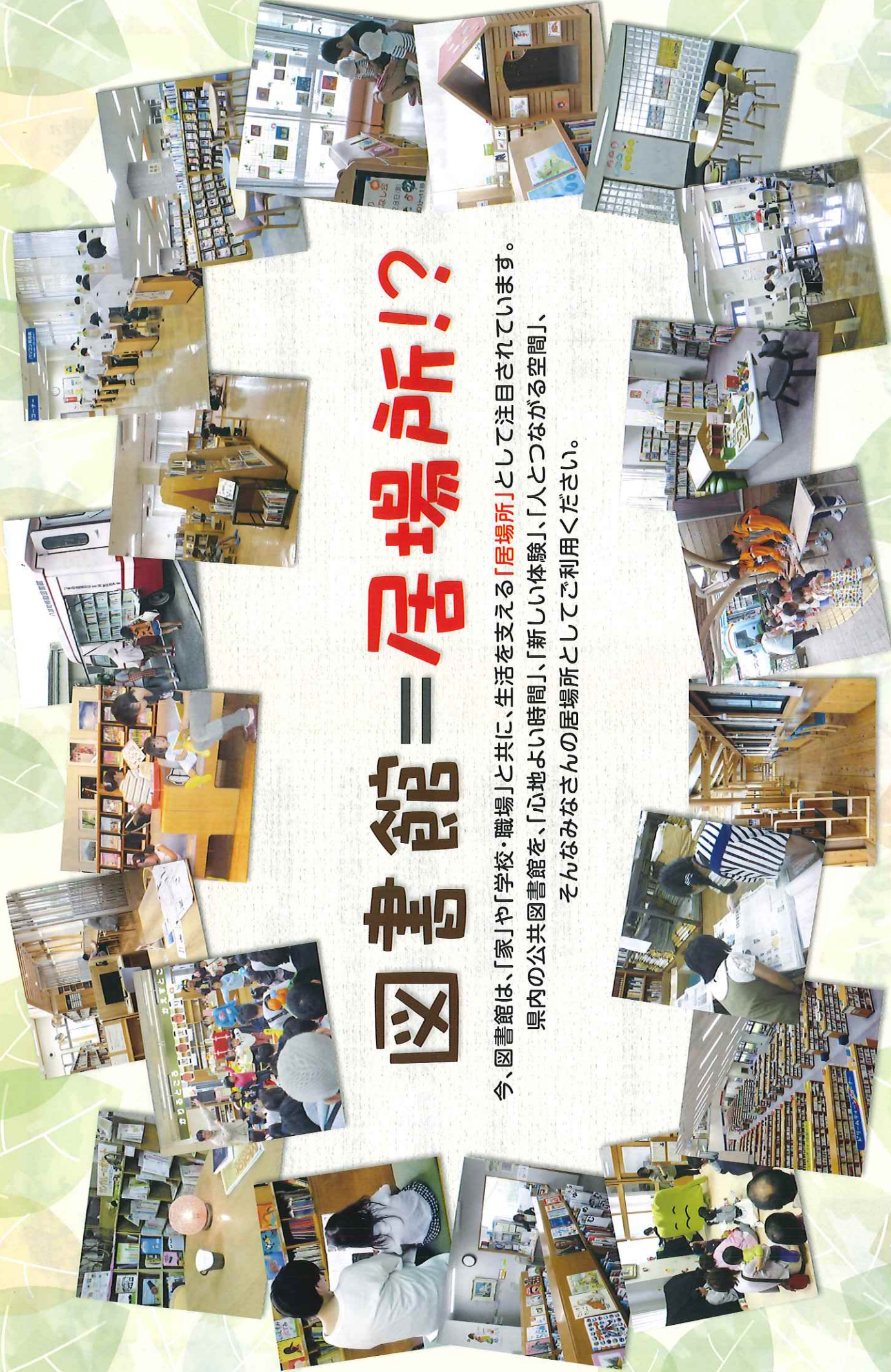


## (4) その他

- ・TVの取材があり、ニュースを見た県内小学校図書館職員から資料がほしいとの連絡があった。

## 3 今後の予定

- ・支援機関や団体職員を招き、図書館の活用法について考えるセミナーを県内3ヶ所で開催(9~10月を予定)
- ・図書館活用法を紹介するポスター・リーフレットの作成
- ・支援制度、奨学金等のチラシ・パンフレットの収集
- ・啓発イベントや展示、相談会、研修会の図書館への誘致
- ・関係イベントへの出前図書館の実施
- ・関係団体や教員に向けたブックリストの作成
- ・社会人が学び直しをするために必要な資料の購入



# 図書館＝居場所!?

今、図書館は、「家」や「学校・職場」と共に、生活を支える「居場所」として注目されています。  
県内の公共図書館を、「心地よい時間」、「新しい体験」、「人とながなる空間」、  
そんなみなさんの居場所としてご利用ください。

